

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 11 月 11 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 11名	(依頼数) 15名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3873500650
事業所名	グループホーム浜っ子
(ユニット名)	ひだまり
記入者(管理者)	
氏 名	宮岡 真由美
自己評価作成日	令和 3 年 10 月 25 日

【事業所理念】 あなたに笑顔で(自分がされていやなことはしない) あなたの笑顔を(自信をもってもらう) あなたと笑顔で(その人らしい人生が送れるよう)	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ①鍵をかけないという方針に取り組み短時間から試みた。職員が3人体制で利用者全員がリビングにいる昼食時に試してみたが、数回の実施で終わり、継続出来なかった。 ②運営推進会議の家族参加を目標に取組んだが、未達成に終わった。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 母体クリニックが併設された事業所は、医師や訪問看護と24時間体制で連絡を取ることができ、利用者や家族、職員は安心感がある。事業所前には中学校があるほか、比較的近い場所に町役場や商業施設が点在するなど、生活しやすい場所に立地している。また、事業所では利用者の意見や行動を尊重し、職員が友達感覚にならないよう配慮しながら、出された要望に柔軟に対応するなど、利用者のペースに合わせながら、笑顔があふれるような楽しみのある生活が送れるよう支援している。さらに、課題や気づきがあれば、その都度職員間で話し合うほか、年度末には1年の振り返りを行い、職員からよかったことや反省点、改善点を出して話し合うなど、課題解決をしながらより良いサービス提供につなげている。加えて、事業所では、管理者が職員の意見を聞き、話しやすく働きやすい環境づくりに努めたり、希望休を取り入れたりするなど、長期に働く職員も多く、離職者は少なくってきている。
--	--	--

評価結果表

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	新しい発見や情報が有ればその都度職員間にて共有し資料作成行なう。	○		○	入居前に、事業所では利用者や家族に、「わたしの『大切なこと』メモ」を記載してもらうほか、管理者と計画作成担当者が、事前に病院に出向いて、利用者等から情報を聞いたり、自宅にいる利用者や家族には見学を兼ねて事業所に来所してもらったりするなど、情報を得ることができている。把握した内容は、わたしの「大切なこと」メモのほか、基本情報や課題分析(アセスメント)に関する項目等にまとめ、情報を把握している。さらに、日々の生活の中で、利用者から思いや希望等の新たな情報を聞くなど、介護日誌等に記載して職員間で共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	ご本人様の立場になって考え周りの職員と協力し家族様にもご協力をお願いしている。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	現在コロナ非常宣言下の為、気になることは電話で聞き取りをしている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	日々の生活の中、気になる事や些細な変化も事細かに記録している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	些細な動作、行動に目を配り職員同士気を配っている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居前の日常生活を家族様に出来る限り聞き取りを行い資料の作成を行っている。			○	入居前に、事業では利用者や家族に、「わたしの『大切なこと』メモ」を記載してもらうほか、アセスメントシートを活用して、生活歴等を聞き、記録に残している。また、病院からサマリーを提供してもらったり、かかりつけ医や介護支援専門員から情報を得たりすることもある。さらに、日々の生活の中で、職員は利用者から話を聞いたり、利用者の様子を観察したりしながら、新たな情報を把握し、課題整理シートを作成している。新たに把握した情報は、介護日誌やアセスメントシートに記載するほか、介護計画の更新時に合わせて、シートの記載情報も更新している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々職員同士協力し合い日常の生活把握に努めている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	状況を記録に詳しく記入し必要があれば職員間で話し合いをする。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	時間をかけてゆっくりとお話を聞き不安を取り除くよう努め原因が判明したら記録に記入し職員間で検討する。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	職員間で共有し、変化があればこまめに記録をし情報の共有を行っている。				
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	職員間で話し合い必要であれば、ご家族様の協力もお願いしている。			○	課題や気になることなどがある場合には、その日の出勤職員と管理者等でその都度話し合いをしている。また、介護計画の更新時には、チームカンファレンスを実施し、利用者や家族の意見を事前に聞くほか、医師や看護師の指示やアドバイスを参考にしながら、職員間で話し合い、利用者の視点に立って、より良いサービスを検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	日々、当ホームにて穏やかに過ごして頂くためこまめに話し合っている。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ケアプラン更新ごとに問題はないか必要があればご家族様のご協力もお願いしている。				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	危険のない範囲でご本人様、ご家族様のご要望にお応えするよう努めている。				アセスメントシート等の情報をもとに、利用者や家族の意見のほか、医師等の指示を踏まえて、チームカンファレンスの中で話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。以前はカンファレンスに利用者が参加したこともあったが、自分のことも話していると機嫌等を損ねたことがあったため、それ以来参加しないようになっている。また、介護計画は、利用者や家族の意向を反映したサービス内容となっている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	変化があればその都度、主治医に相談しご家族様には電話にて対応している。	○		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	ご家族様やご本人様にお聞きし自宅での生活に近づけるよう努めている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	病院受診の場合ご家族様の同行をお願いしている。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	内容を把握理解して、毎月のモニタリングシートを使い、職員間にて共有している。			○	担当職員等は、チームカンファレンスに参加して介護計画の内容を把握するとともに、各ユニットで計画作成担当者等が計画を説明し、職員間で共有している。介護計画のサービス実施内容が分かりやすいよう、個別の介護記録に番号をつけて記録に残している。また、利用者の発した言葉や様子は、細かく介護記録に状態・変化や職員の対応などを記載し、記録した職員がサインをしている。さらに、介護日誌にユニットの利用者全員分の申し送り事項を記載するほか、職員は気づきやアイデアを残すことができている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	カンファレンスを行い、評価を行い、内容に変化があれば、新しい介護計画に反映させる。			○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子（言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等）や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	こまめに介護日誌に記入し、重要なことは特記事項として職員に周知させる。			◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	職員の気づきなどを介護日誌に記入、職員間で意見交換を行っている。			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	ケアプラン更新時に見直しを行う。変化があれば、その都度見直しをする。			○	介護計画は、6か月に1回見直しをしている。毎月、担当職員を中心に、モニタリングシートを活用して、利用者の状態確認などを実施し、3段階等で評価してコメントを残している。また、介護計画の更新時期に合わせて、6か月に1回計画作成担当者等が評価するとともに、介護計画の更新前には、アセスメントシートの情報を更新している。また、大きな変化が見られた場合には、主治医等から意見をもらいながら、現状に即した介護計画に見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月一回支援内容を確認している。			◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	御家族様の意向を聞き、主治医に相談をして、現状に即した計画を作成している。			○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	日々の個人記録や申し送りに記入し、必要な場合は話し合いをしている。			○	現在のコロナ過において、定期的に全体ミーティングを開催することはできていないが、課題や気になることなどがある場合には、その日の出勤職員と管理者等でその都度話し合いをしている。話し合いに参加した職員には、管理者等が意見を言いやすいような雰囲気づくりをして、職員からの発言を促している。また、参加できなかった職員には後日意見をもらうほか、内容を伝達している。さらに、全体ミーティングやチームカンファレンスなどの会議は議事録を作成し、職員に配布するとともに、重要事項は口頭で伝達をしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	活発な意見交換が出来るように、一人一人に充分な時間と雰囲気作りをしている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	日常業務に支障が出ないように場所や開催日時を決めている。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	当日、書記係がまとめを行い、資料を欠席職員に配布し、内容を伝えている。			○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送り、聞き漏れの無いように職員間で気を付けている。			○	朝・夕に引き継ぎを実施しているほか、日々の介護日誌にも特記事項や申し送り事項等を記載することができている。また、出勤時には介護日誌を職員は必ず確認するとともに、確認後には日付とサインを行い、確実な情報伝達につなげている。さらに、新たな利用者が入った場合には、重要事項などの情報は別途管理者から回覧をしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。（利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等）	○	介護日誌に必ず目を通し、確認のサインを行っている。	○			

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	利用者さんの訴えがあれば、出来る限り叶えるように努めている。				事業所では、利用者の意見や行動を尊重し、職員が友達感覚にならないよう配慮しながら、出された要望に柔軟に対応するなど、利用者のペースに合わせながら、楽しみのある生活が送れるよう支援している。職員は声かけをして、着る服を選んでもらったり、どの飲み物にするか聞いたりするなど、可能な範囲で利用者に自己決定してもらえるよう支援している。また、カルタ取りが得意な利用者がレクリエーション時に盛り上がり、利用者が生き生きとしながら生け花をしたり、好む話題提供などの雰囲気づくりをするなど、利用者の生き生きとした言動や表情が見られるよう努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	選択し選んでいただくよりも、職員が決めたことの提案が多いように思える。			○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	常時に利用者さんが言って頂けるよう努めているが充分ではない。本人が納得するように暮らせるように心がけている。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	利用者さん一人一人のペースに合わせて支援を行いたい、時間の制約や職員の都合を優先することもある。				
		e	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	感情の変化を引き出すために、話しかけや、しぐさに気を付けている。			○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情や、しぐさを見落とさぬように日頃の気づきに注意を払っている。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重したい関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	トイレ、入浴、着替え時のプライバシーや声掛けの言葉選びに気を付けている。		○	○	現在のコロナ禍において、職員は外部研修等に参加できないため。法人としてウェブ研修等の活用を促し、職員は人権や尊厳などを学ぶとともに、日々の業務の中で、管理者等が職員に指導をしている。職員は研修等で、利用者の人権や尊厳などを理解しているものの、訪問調査日には、排泄中の耳の聞こえにくい利用者に職員が、「便が出よるけん、動かん」といった大きな声が聞こえたため、職員間で再度話し合ったり、注意し合ったりするなど、プライバシーや羞恥心に配慮した対応ができることを期待したい。また、居室の入室時には、声かけやノックを行うとともに、不在時には事前に利用者の方を得てから入室することができている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	入居者さんひとりに適した声掛けをしている。配慮に欠けていないかどうか気を付けている。			△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	周りに注意しながら声掛けに気を配り、タオルで顔を隠すなどして介助している。				
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に入る時は必ずノック、声掛けをしてから入っている。				
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	守秘義務遵守の徹底を理解したうえで業務にあたっている。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者さんとの会話の中で心に癒しを頂いている。				利用者の鼻水が出ている場合に、他の利用者がティッシュを持って行くなどのフォローをしたり、変わった行動をする利用者がいた場合に、他の利用者が職員を呼びに来たりするなど、利用者同士で助け合いや支え合いをする場面が見られる。また、認知症の進行などにより、利用者が大声を出した場合にテレビの音が聞こえず、他の利用者と言ひ合いになりそうな場合もあるが、職員が利用者の間に入ったり、居室へ移動してもらったりするなどの対応をしている。さらに、利用者の配席を変更して対応することもある。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士が自主的に声を掛け合うこともある。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	職員が間に入り、なるべくトラブルになったり、孤立したりしないように、席を離すとか時間をずらすとかして気を配っている。			○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	問題が起こった場合、すみやかに間に入って仲裁して問題の解決に努めている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	施設に入居時、また面会に来られる家族に聞き取りを行い、情報を把握している。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	入居者さんとの会話の中から情報を得ることもあるが、それは断片的な情報であり、把握できているというわけではない。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	コロナ禍の現在、入居者さんが外出することもない。知人友人の面会も制限されている。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	×	コロナ禍の現在、差し入れの受け取りはあるが、面会は制限されている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	×	コロナ禍という事もあり、通院への同行などの場合以外は戸外に出ることはない。	△	×	○	現在のコロナ禍において、外出する機会は減っているものの、日常的に敷地内を歩いたり、敷地内にある花壇に花を植えたり、外気浴をするなど、利用者が気分転換ができるよう努めている。また、車いすを使用している利用者と一緒に、外気浴などをすることができている。また、家族の協力を得て、専門医の受診に行くことができている。さらに、外出で季節の移ろいを利用者に感じることができていないため、事業所では、七夕まつりや敬老会などの行事を開催したり、季節の生け花やミカンの木などを飾ったりするなど、季節が感じられるよう工夫している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	外出支援は出来ていない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	施設内の一角に出て、外の空気に触れたり、歌と一緒に歌うことはある。				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	御家族の協力の下で外出をお願いしているが、コロナ禍の中定期健診のみの外出となっている。				
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	研修を通し、それらの情報を職員間で共有し、利用者さんへのケアを行っている。				町行政が作成した「まっさき！げんきたいそう」やDVDを見ながら、リハビリ体操をするなど、利用者の心身機能の維持に努めている。また、利用者には、玉ねぎの皮むきや調理の下ごしらえ、洗濯物たたみなどの生活リハビリも取り入れている。また、利用者のできることやできそうなことは、職員の時間の許す限り、見守りや待つ介護に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	一人一人入居者さんに合わせた食事の改善、食事の介助、リハビリなどを活用し、スムーズに日常生活が送れるように努めている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	職員と一緒に簡単な作業をして頂き、出来るところは見守りだけで行っている。	○		○	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者さんの好きなこと、苦手なことを把握しておき、得意なことは声掛けをして、やって頂くことにしている。				以前、華道の指導者をしていた利用者が花を活けたり、得意なカルタを取り入れたり、利用者の要望に応じて、野菜の名前を書いた札を作成して、何のメニューができるか楽しみながら会話が弾むよう取り組むなど、利用者の役割や出番づくりができるよう努めている。また、脳トレやクロスワードなど、熱心に取り組む利用者もいる。さらに、利用者と一緒に季節に応じた貼り絵を作成したり、七夕の時には短冊に願いごとを書いたりしてもらするなど、張り合いや楽しみが持てるような支援をしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	利用者さんのレベル低下が進んでも、何か興味を引くことはないのかを考え、見つけるようにしている。	×	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	出来ていない。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしやれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしやれについて把握している。	○	出来る限り、本人さんの個性を尊重している。				入浴後に、ボディークリームや化粧水をつけたり、自分で服を選んでおしやれを楽しんだり、自分で髭剃りをする利用者もいる。また、食べこぼしや整容の乱れが見られた場合には、声かけをして居室に移動してもらい、着替えてもらったり、さりげないフォローをしたりしている。さらに、重度な利用者にも、毎日の着替えを支援するほか、身だしなみや清潔感などの配慮をしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	ご家族さんの協力の下、本人の好みに合ったものを持ってきていただいている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	季節や体調にあわせ本人さんの意向も踏まえて行っている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	場面に合わせた色柄、組み合わせに気を付けている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	声の大きさや声掛けの内容に気を付けて、食事前のエプロンも各人に応じて使用している。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	訪問理容にお願いしており、一人一人の希望に添えるように努めている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	身なりや整容には、こまめに気を付けている。			○	
17	食事を楽しむこと のできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	興味を持ってもらうよう色合い、配膳の仕方に気を付けている。				その日の冷蔵庫にある食材を見て、利用者に食べたいメニューを聞きながら、職員が献立を決めている。業者のカatalogを見て食材を配達してもらったり、職員が買い出しに行ったりしている。利用者に調理の下ごしらえや玉ねぎの皮むきなどを手伝ってもらいながら、各ユニットで職員が順番に調理をしている。アレルギーや嫌いな物などがある場合は、代替えなどの食材を用意したり、利用者毎の食事形態に合わせて、刻み食などの対応をしたりしている。食器は、入居時に自宅で使っていた物を持ってきてもらうように伝え、使用している。昼食時には、職員も利用者と同じ物を食べているものの、介助やサポート、見守りが必要な利用者も多く、同じテーブルを囲むことができず、職員は時間をずらして、キッチンカウンター等を使用して食事を摂っている。また、対面キッチンとなっており、重度な利用者も調理の音や匂いを感じることができている。さらに、栄養士のアドバイスまではもらうことができていないものの、職員間で食事内容を話し合ったり、医師から糖質や塩分などの意見をもらったりすることができている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	簡単な前作業をお願いしたり食器を下膳してもらったり、利用者さんに何が食べたいか聞いている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	コップやお皿など出来る方は洗い場まで持って来ていただきお礼の言葉を伝える。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	ご入所時に御家族様に聞き取りを行っている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味などを取り入れている。	○	季節がわかるように、また、ご本人様の食欲がわくよう努めている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いどりと器の工夫等)	○	ご本人様に合った食事の提供、季節にあったお皿、配膳の仕方に気を付けている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	ご自宅にて使っている物に近いものを用意している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	×	現在、食事介助が必要な入居者様が多く職員と一緒に食べることは出来ない。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	前もってリクエストを聞き、出来る限りご希望にそよう努めている。	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	主治医の指示の下、確保出来るよう努めている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	数種類の水分を常に用意している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	メニュー表を作成し似た料理がでないか確認後、料理に取り掛かっている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	使用後の調理器具は消毒を徹底し、食品の賞味期限に気を配り使いいきよう努めている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	職員同士話し合い、重要性を理解している。				職員は、訪問歯科医にアドバイスをもらいながら、口腔ケアの重要性を理解している。毎食後、利用者は洗面台で、歯磨きなどの口腔ケアを実施しており、職員は見守りや声かけを行うほか、必要に応じて介助をしている。自身で歯磨きができる利用者までは、口腔内の状況を確認することができていないため、定期的に全ての利用者の口腔内の状況を確認し、異常が見られた場合には、早期の歯科診療につなげられることを期待したい。また、痛みなどの不具合が生じた場合には、歯科受診や訪問歯科診療につなげている。さらに、夕食前には口腔ケア体操を行っている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	把握に努めているが全員は出来てない。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	往診の歯科医より学び、職員間にて情報の共有を行っている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	食後の介助、声掛けをしながらお手伝いしている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	△	口腔ケアに対し嫌がられる方もおり、無理な日もある。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	発見しだい管理者に伝え、ご家族様に連絡了解頂き次第歯科医の往診をお願いしている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	ご本人様が自力で行えるギリギリまで使わないよう努めている。				重度な利用者も多く、ほとんどの利用者は紙パンツを使用して過ごしている。個別の介護記録に排泄状況を記録し、職員は排泄リズムを把握している。声かけやトイレ誘導により、布パンツで過ごすことのできている利用者もいる。また、おむつなどの使用時には、適切な排泄用品を職員間で話し合い、家族に確認して使用している。夜間に、ポータブルトイレを使用している利用者もいる。さらに、職員は適度なレクリエーションの参加や水分補給、繊維質の多い食事を取り入れて便秘などの防止に努めるとともに、何日も排便のない利用者には、医師の指示を仰ぎながら、下剤などの服薬をしている利用者もいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	主治医指導のもと、職員間で理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	個々の排泄チェック表を作成、日々確認を行っている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	その都度、こまめに職員が集まり、話し合っている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	主治医に相談の下取り組んでいる。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	日常生活におけるしぐさや排泄チェック表も使いご本人様の負担にならない程度で早めのお声かけを行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	入居者様が判断することは難しいので職員間で話し合いご家族様に了解を頂くようにしている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	日常生活の中でご利用者様に合う状態に出来るように努めている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	種類を多く用意したり、レクリエーションにも出来る限り参加して頂くよう努めている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	ご本人様の体調が悪くなければ出来る限りご本人様の意思を尊重している。	◎		○	午前入浴時間を基本として、利用者は週2回程度入浴することができる。利用者の希望に合わせて、湯船に浸かる時間や温度などにも対応し、自分のペースでゆったりと入浴ができるよう支援している。また、好みのシャンプーやボディークリームを使用している利用者もいる。入浴を拒否する利用者には、職員が交代して声かけをしたり、入浴日や時間を変更したりするなど、柔軟に対応しながら、入浴してもらうことができている。さらに、入浴後には、ボディークリームや化粧水を付けることを楽しみにしている利用者もいる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	○	自立している方、全介助の方それぞれに見合った入浴介助を行いくつる時間になるよう支援している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	声掛けを行い、ご自身が出来る所はして頂くよう支援している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	職員を交代したり、時間や曜日をずらしたりしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前のバイタルチェック、入浴後の状態確認を行っている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜勤の職員と、こまめに情報の共有を行っている。				事業所では、日中のレクリエーションやリハビリ体操などの活動量を増やし、利用者が夜間に安眠できるよう努めている。個別の介護記録には、職員が3時間毎に見回りをした睡眠状態などを記録することができている。中には、日中にソファなどで昼寝をして過ごし、夜間にベッド上に座ったままの利用者や、何かに話しかけているような利用者がいるものの、自分の居室で過ごし周りに迷惑がかからない場合には、利用者の生活リズムで過ごしてもらうことも多い。また、眠れないことにより、体調面に支障をきたす利用者には、医師に相談して、眠剤などを服薬をしている利用者もいる。また、18時過ぎには自分の居室で利用者は過ごしており、ほとんどの利用者は朝6時頃まで睡眠をとることができている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	主治医に相談したり、昼夜逆転にならないようレクリエーションなどで体を動かしている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	病院受診時相談、主治医指示の下で対応している。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	午睡される方には時間配分に気を付けている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	利用者さんから要望があればご家族様へ電話をしている。ご家族様からの電話はおつなぎしている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	ご本人様の訴えがあれば職員が手助けをしている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	要望があれば対応している。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	お返事を書きたいと言われた場合は職員がお手伝いをします。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	ご入所時や何か有ればその都度お願いしている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	×	当ホームでは、お金の所持はお断りしており、必要に応じてホームにて立替をしている。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	職員が、立替金にて購入している。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	当ホームでは行っていない。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	ご入所時において、ご本人様、ご家族様に所持出来ないことをお伝えし、ご了承頂いています。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	×	ご入所時、金銭の持ち込みはお断りしている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	立替金にて対応し、毎月のご利用額と購入品を明確にお伝えしている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	何か有れば、その都度ご家族様にご連絡しニーズに合うケアに努めている。	◎		○	現在のコロナ禍において、外出や外食の要望などに応えられない部分があるものの、事業所では可能な範囲で、利用者や家族の要望に柔軟に対応している。また、専門医の病院受診は家族にお願いしているが、ケースによっては職員が同行受診の対応をすることもある。

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関入口に四季折々の貼絵を飾っている。	◎	◎	○	母体クリニックが併設されている事業所は、敷地内にある花壇の近くや玄関内にベンチや座れる場所を確保し、利用者等が座って休めるようにしている。玄関前は、駐車場となっているものの、すっきりと整理されている。事業所内には、「ようこそ、浜っ子へ」などと表示したり、生け花を生けたりするなど、来所しやすい雰囲気づくりをしている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそごような設えになっていないか等。）	○	危険のない範囲にて季節に合った飾りつけに気をつけている。	○	○	○	事業所前には、幹線道路を挟んで地域の避難場所にもなっている松前中学校があるほか、比較的近い場所には町役場や商業施設も点在している。コロナ禍において、事業所では外出できる機会が減ったため、利用者に季節を感じてもらおう、季節の生け花や貼り絵などを飾り、利用者に雰囲気が味わえるよう工夫している。また、事業所内には多くの観葉植物が置かれている。共用空間にはカウンターキッチンがあり、職員は調理しながら利用者の様子を見渡すことができる。リビングはソファやテーブルが置かれ、訪問調査日にはいすに座って会話や昼寝をしたり、居室で過ごししたりするなど、思い思いの場所で過ごしている様子を見ることができた。さらに、職員が毎日こまめな清掃や1時間毎に窓を開けて換気を行うなど、清潔が保持されている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	掃除、消毒はその都度こまめに行っている。コロナ禍の折定期的な換気・消毒をしている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を飾ったり、四季ごとの飾りつけにも気をつけている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	耳が遠い方がほとんどの為、職員が間に入りお話をする。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	職員が気を配り見えないよう努めている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	危険のない物であれば出来る限り使い慣れているものを使って頂く。	◎	/	○	居室には、タンスやチェスト、エアコンが備え付けられている。布団は事業所で用意し、ベッドはレンタル等をしてもらっている。居室には家族の写真やテレビなどを持ち込むことができるものの、車いすを使用している利用者も多く、整理整頓され、すっきりとした印象を受ける居室も多い。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	出来ることはご自身でして頂き自信を持って頂くよう努める。	/	/	○	利用者に居室が分かりやすいよう、入り口の横には大きく引き伸ばした利用者の顔写真と表札を貼っている。認知症等で迷う利用者には、引き戸に大きく氏名を表示したものの、すぐに忘れてしまうこともある。タンスなどには、中に入っているものが分かるようタオルなどの表示をしている。また、利用者が移動しやすいよう廊下などには物を置かず、動線も確保されている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	失敗しても最小限に悔い留められるよう職員同士で協力を行っている。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。（ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	○	入居者様の訴えが有ればその都度、出せる状態にしている。	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟）の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等）	◎	職員全員、理解しているが、やはり入居者様の命に関わるため施設を行っている。	◎	◎	△	事業所では、利用者の安全面を考え、日中にも玄関やユニットの入り口を施設している。入居時に、施設することを家族等に説明し、理解してもらっている。また、外出しようとする利用者には、職員と一緒に1階に降りて、敷地内を散歩をするなどの対応をしている。中には、鍵を持たせてもらっている利用者もあり、自身でエレベーターを降りて敷地内にある花壇に行き、くつろぐ場面も見られる。法人・事業所として、利用者の安全面を第一に考えていることもあるが、可能な範囲で職員間で再検討し、コロナ禍の収束後には外出できる機会を増やすなど、利用者の立場に立って考え、自由な暮らしを実現できることを期待したい。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施設を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	ご家族様の理解は頂いて御了承も頂いている。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等）。	×	玄関は開放しているが、各階エレベーターホールは安全上の為、常時施設している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や 病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	ご入所時、主治医、相談員の情報により把握理解している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	日常の状態を事細かに記録している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	当ホーム敷地内に併設している病院の看護師に連絡出来る状態にある。				
31	かかりつけ医等の 受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	訴え有ればすぐに、お薬手帳、バイタル表すぐ受診出来るようにしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	ご家族様の意見を尊重したうえでやっている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	必要に応じて、受診後、ご家族様に連絡を取り話し合いをしている。				
32	入退院時の医療機関との 連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	事細かく情報作成を行い、もれのないよう数人の職員で確認に努めている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院関係者・ご家族と連絡を取り合っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	管理者、ケアマネジャーがこまめに連絡をとっている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	当ホーム敷地内併設している病院医師、看護師に相談出来るようにしている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	敷地内の併設している病院院長に連絡、相談出来る体制をとっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	顔色、言動、バイタルを見て異常があれば隣接している病院看護師に相談する。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	効能書きを確認し理解している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬チェック表を作成し2重の確認体制にて行っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	服薬後状態を細かく記録し必要に応じて主治医に相談する。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	服薬後、変化が見られる場合、状況を記録し主治医に相談する。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入所時にご家族様に聞き取りを行うが、何か有れば状態に応じて相談を行っている。				法人・事業所として、特段の看取りの指針などは用意はしていないものの、利用者や家族が希望する場合には看取り支援を実施しており、多くの経験をしている。事業所では、利用者の入居時に、家族等に対応できることを説明し、看取りの同意を得ている。また、利用者が重度化した場合には、家族等の意向を踏まえて、医師を交えて話し合い、方針を共有して支援をしている。母体クリニックが併設されているほか、医師や訪問看護と24時間体制で連絡を取ることができ、利用者や家族、職員は安心感がある。さらに、看取りの際には、医師や看護師の指示を仰ぎながら、管理者を中心に支援をしている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	ご家族様、主治医とよく相談をし方針を共有している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	都度現状を把握しどのように対応出来るか職員と話し合っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入所時に説明を行うが分からない事が有ればその都度連絡を頂きお答えしている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	ご家族様、主治医の下、指示通り対応出来るように努めている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	管理者がこまめに連絡をとっている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	役場・医療機関よりの情報や研修を行い利用者の体調管理にも気をつけている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	マニュアルはあるが訓練は出来てない。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	情報を職員間でチェックし共有している。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	役場との連携・情報を収集し対応している。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	手洗い、うがいマスク着用を徹底している。来訪者の方にもお願いしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	こまめに連絡をとっている。				現在のコロナ禍において、外出や面会の制限を設けており、家族の参加できる行事は実施できていないものの、窓越しの面会ほか、県内のワクチン接種の家族に限定して、事前予約で1回10分程度、対面での面会に対応するなど、徐々に緩和している。コロナ禍以前は、家族と一緒に外出や外食に出かけたり、事業所の行事に参加を呼びかけ、参加協力をしてもらったりすることができていた。また、何かあった場合は家族に電話連絡をするほか、2か月に1回ホーム便りを送付したり、3か月に1回程度、利用者毎の担当職員が担当メッセージの欄にコメントを書いたりするなど、利用者の様子を伝えている。さらに、玄関には花を活けたり、壁に「ようこそ、浜っ子へ」などの表示をしたりするなど、来所してもらいやすい工夫をしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	×	現在緊急時下(コロナ)の為、中止している。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	現在緊急時下(コロナ)の為、中止している。	×		△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	二ヶ月に一度、日常の状態を知ってもらうためホーム便りを作成し送付している。何か変化がある場合はその都度電話をしている。	○		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	その都度、連絡を取り日常の状況をお知らせするとともに、気になることは無いか尋ねている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	入居前の生活状況を家族さんから聞き取り職員間で情報の共有をしている。家族さんとお話することが有れば必ず入居者様の様子をお伝えし話し合っている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得ようとしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	×	入居者様が関わっている行事などは、ホームだよりや電話にて連絡をしているが、それ以外は行っていない	×		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	現在緊急時下(コロナ)の為、家族参加の行事は行っていない。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	こまめに連絡をとり危険のない範囲で入居者様にあった生活が出来よう相談している。				
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時に文書とともに説明をし納得して頂いている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退居についてはカンファレンスの話し合いや家族さんへの説明をその都度行い記録に残している。転居先へ安心して移れるよう支援している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時に説明し納得して頂いている。料金改定時には文書により通達している。				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	理解が得られるよう努めているが充分ではない。		◎		現在のコロナ禍において、地域住民と交流する機会は減っているものの、職員は地域住民にあいさつをしている。コロナ禍以前は、中学生の職場体験や傾聴ボランティアを受け入れたり、秋祭りや敬老会などの地域行事に参加したり、花を植えている近隣住民の自宅を訪問して、見学や写真を撮るなどの交流をすることができていた。また、地元の利用も多く、知人や友人が事業所を訪問し、交流することもできていた。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	△	日常的な挨拶は職員全員が心がけ実践している。町内行事・中学生の体験学習の受入れを行っているが、コロナ禍の為中止している。		△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	定期的なボランティアの支援はあるがコロナ禍の為中止している。増えてない。				
		d	地域の人気が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	△	コロナ禍の為面会制限に協力して頂いている。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	挨拶をしたり会話をすることはあるが、日常のお付き合いは出来てない。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	×	コロナ禍の為傾聴ボランティア・中学生の体験学習も中止している。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	一人一人の地域資源の把握は出来てないが、利用者さんに寄り添いそれぞれの力が発揮できるよう支援している。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	△	取り組んではいるが充分ではない。				
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	利用者・地域の方の参加はあるが家族の参加はない。コロナ禍の為令和2年10月度の開催後は議事録の送付のみ行っている。	×		○	運営推進会議は、区長や民生委員、介護サービス相談員、町担当者等の参加を得て、偶数月に開催している。令和2年10月以降の会議は、コロナ禍において書面会議となっており、参加メンバーに報告書を送付している。会議の議事録は、リビングに置いて閲覧できるようにしているが、会議には家族の参加もなく、利用者家族等のアンケート結果からも理解が得られていないことが窺えるため、コロナ禍の収束後には、今後は全ての家族に会議への参加を呼びかけたり、会議に参加できていない家族に議事録を送付したり、ホーム便りに会議の内容を掲載するなど、理解が得られる取組みを期待したい。すでに、1家族には会議の参加を呼びかけ、集合形式の会議開催時には、参加を予定している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	○	会議の議事録を公表・報告している。			○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	出された意見や提案は職員間で共有しサービス向上に活かしている。現状は運営推進会議を開催していない為施設からの報告のみとなっている。		◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	参加メンバーの方と相談しながら配慮している。		◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	リビングに置いて公表している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	リビングに掲示している。ミーティングの時理念に基づいて実践出来ているか話し合っている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	玄関入口と各フロアのリビングに事業所理念を掲示している。	x	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	年間計画により研修受講出来るよう取り組んでいる。コロナ禍の為外部研修が難しいので、web研修を取り入れている。				コロナ禍以前は、外部研修などの研修案内を職員に回覧し、希望する研修には参加してもらい、参加した職員は事業所内で伝達し、職員のスキルアップに努めることができていた。現在は外部研修に参加することができず、事業所内研修も減っているため、法人からウェブ研修の提案があり、職員に学習する機会を設けている。代表者は事業所に来訪する機会はほとんどないものの、受診の際に利用者や職員と話すことはあるが、管理者を通じて意見を伝えることが多い。また、事業所では年度末に1年を振り返り、職員からよかったことや反省点、改善点を出してもらい、職員間で話し合いをしている。さらに、事業所では、管理者が職員の意見を聞き、話しやすく働きやすい環境づくりに努めたり、希望休を取り入れたりするなど、長期に働く職員も多く、離職者は少なくなってきた。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	取り組んではいるが、実行は遅れている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	給与水準・労働時間の向上に努めている。資格取得に向けての努力が評価に反映されるようになっている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	研修案内があれば参加しているが充分とは言えない。コロナ禍の為現状は参加出来てない。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	職員の力量・人間関係に配慮し勤務を組んでいる。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	社内研修で繰り返し学んでいる。日々職員間で話し合い理解している。				職員は、ウェブ研修等で虐待防止等を学ぶ機会があるほか、気になることがある場合にはその都度話し合いをしている。不適切なケアを発見した場合には、管理者やリーダーから職員に注意喚起をするほか、職員同士で注意し合うこともできるようになってきている。また、日常的に管理者等は職員の表情などにも注意を払い、溜息が多くなったり、疲れた表情が窺えたりすると、相談や有休の取得を促している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	年度末に一年を振り返り良かったこと・反省点・改善点を話し合っている。日常の業務においても気づきがあれば話している。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	注意をはらっている。行為を発見した場合はマニュアルに基づいて対応し話し合いをしている。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	日常的に注意をはらい点検している。				
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	資料に基づき研修し正しく理解している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	利用者さんの状況を見極めながらカンファレンス時に話し合いをしている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	入居時に家族さんに説明をして理解を頂いている。変更があればその都度家族さんと話し合いをしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	社内研修で学んでいる。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	相談があれば管理者・ケアマネが対応している。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	相談があれば支援出来る体制にある。				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルにそって行動出来るように職員全員で取り組んでいる。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	訓練は出来てない為実践力は、職員により差がある。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットを作成しその都度、職員間で話し合い再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	日ごろから予測・検討し未然に防げるよう努めている。				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルに基づき対応方法を検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	迅速に対応し納得して頂けるよう話し合いの場を設けている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	迅速に対応し家族さんが納得出来るよう話し合いを行う。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	介護相談員の方に来て頂いていたがコロナ禍の為訪問がないので職員が日々の関わりのなかで聞いている。			○	コロナ禍以前は、町行政から介護サービス相談員の派遣があり、利用者の意見や話を聞いてもらい、管理者等に伝えてもらうことができていた。現在は、日々の会話の中で職員が意見を聞いているものの、外出や食事以外の意見はほとんど出されていない。また、以前は各ユニットに意見箱を置いていたが、意見はほとんど入らなかったため、玄関にメッセージボックスと名称を代えて、意見を入れてもらいやすい工夫をしたものの、コロナ禍において面会制限があり、家族の来訪はほとんどなかったこともあり、意見は出されていない。家族には、電話連絡時に意見を聞くよう努めている。さらに、日々の業務や話し合いの中で、管理者は意見を聞くほか、今年から新たに個別面談を取り入れ、意見や相談を聞く機会をもつようになっている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	前回の外部評価時に周りに人がいないほうが記入しやすいのでは？とアドバイスを頂いたので意見箱を玄関に設置した。ネーミングもメッセージボックスに変更した。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	公的な窓口の情報をリビングに掲示している。入居の際にも話をしている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	管理者を通じて職員の意見・要望を聞いている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員から出る意見・提案はその都度聞き利用者さんの支援にいかしている。			○	

愛媛県グループホーム浜っ子

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年一回職員全員で自己評価に取り組んでいる。				外部評価の自己評価は、各ユニットで職員の意見を聞きながら、リーダーを中心に作成している。自己評価の作成は、職員の振り返りや学習の機会にもなり、テーマに沿って職員間での話し合いにも活用されている。また、外部評価のサービスの評価結果は、運営推進会議の中で報告をするほか、職員にも報告して、目標達成計画を作成し、目標の達成に取り組んでいる。利用者家族等のアンケート結果から、家族に外部評価の取り組み状況の理解が得られていないことが窺えるため、今後は簡単に評価結果をまとめたものをホーム便りに掲載したり、コロナ禍の収束後には、家族等に取り組み状況の確認などのモニターをしてもらったりするなど、理解が得られるような取り組みを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	職員全員で取り組むことで意識統一され学習の機会になっている。				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標達成計画を作成し職員全員で達成出来るよう取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	運営推進会議と家族さんには報告しているが、モニターはしてもらっていない。	×	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	職員間の確認のみで終わっている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	△	マニュアルを作成し職員には周知しているが、近年未曾有の災害が発生しているのでマニュアルの見直しが必要であり取り組んでいるが遅れている。				法人・事業所として、災害時のマニュアルを作成しているが、町行政から事業継続計画（BCP）の策定依頼があり、今後管理者は策定を予定している。年2回、日中や夜間を想定した避難訓練等を実施し、事業所前の中学校が避難所になっているものの、災害発生時には建物内の垂直避難を予定している。また、運営推進会議を活用して、地域の防災について話し合いをしたこともある。コロナ禍の収束後には、地域の防災訓練に参加協力をしたり、ホーム便りに訓練の様子を掲載したりするなど、家族に防災に関する理解が得られるような取り組みを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中、夜間帯でも対応出来るよう訓練を行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	消防署立会いの訓練を行っているが近隣の事業所・地区住民との支援体制の確保は出来てない。	×	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	×	参加出来てない				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	×	積極的な発信はしていない。				法人・事業所として、積極的な相談機能などの情報発信はしていないものの、地域住民から相談があった場合には快く対応をしている。コロナ禍以前は、秋まつり等の際には、敷地内の駐車場を休憩場所として開放するなどの協力をしている。また、町行政や地域包括支援センターのイベントや会議に参画するなど、連携を取ることができている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	相談があれば応じる。		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	△	地方祭の時、神輿の休憩場所として開放している。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	中学校の体験学習の受け入れをしている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	○	町や地域包括主催のイベントに参加している。近年はコロナ禍の為参加を見合わせている。			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

Ⅰ.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

Ⅱ.家族との支え合い

Ⅲ.地域との支え合い

Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 11 月 11 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 11名	(依頼数) 15名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3873500650
事業所名	グループホーム浜っ子
(ユニット名)	おあしす
記入者(管理者)	
氏 名	宮岡 真由美
自己評価作成日	令和 3 年 10 月 25 日

【事業所理念】 あなたに笑顔で(自分がされていやなことはしない) あなたの笑顔を(自信をもってもらう) あなたと笑顔で(その人らしい人生が送れるよう)	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ①鍵をかけないという方針に取り組み 短時間から試みた。職員が3人体制で利用者全員がリビングにいる昼食時に試してみたが、数回のみの実施で終わり、継続出来なかった。 ②運営推進会議の家族参加を目標に取組んだが、未達成に終わった。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 母体クリニックが併設された事業所は、医師や訪問看護と24時間体制で連絡を取ることができ、利用者や家族、職員は安心感がある。事業所前には中学校があるほか、比較的近い場所に町役場や商業施設が点在するなど、生活しやすい場所に立地している。また、事業所では利用者の意見や行動を尊重し、職員が友達感覚にならないよう配慮しながら、出された要望に柔軟に対応するなど、利用者のペースに合わせながら、笑顔があふれるような楽しみのある生活が送れるよう支援している。さらに、課題や気づきがあれば、その都度職員間で話し合うほか、年度末には1年の振り返りを行い、職員からよかったことや反省点、改善点を出して話し合うなど、課題解決をしながらより良いサービス提供につなげている。加えて、事業所では、管理者が職員の意見を聞き、話しやすく働きやすい環境づくりに努めたり、希望休を取り入れたりするなど、長期に働く職員も多く、離職者は少なくなっている。
--	---	---

評価結果表

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	ご利用者様やご家族様の言動や駆動を日々観察し、把握に努めている	○		○	入居前に、事業所では利用者や家族に、「わたしの『大切なこと』メモ」を記載してもらうほか、管理者と計画作成担当者が、事前に病院に出向いて、利用者等から情報を聞いたり、自宅にいる利用者や家族には見学を兼ねて事業所に来所してもらったりするなど、情報を得ることができている。把握した内容は、わたしの「大切なこと」メモのほか、基本情報や課題分析(アセスメント)に関する項目等にまとめ、情報を把握している。さらに、日々の生活の中で、利用者から思いや希望等の新たな情報を聞くなど、介護日誌等に記載して職員間で共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	分からない場合はご家族に聞いて把握に努めている				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	基本的にはご家族だが、機会があれば他の方にも聞いている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	「私の大切なこと」資料を基に職員全体で把握している				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	定期的カンファレンスやミーティングなどで常に共有している				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	△	出来る限り情報を集めているが、心身レベルの変化などで完璧でない場合もある			○	入居前に、事業所では利用者や家族に、「わたしの『大切なこと』メモ」を記載してもらうほか、アセスメントシートを活用して、生活歴等を聞き、記録に残している。また、病院からサマリーを提供してもらったり、かかりつけ医や介護支援専門員から情報を得たりすることもある。さらに、日々の生活の中で、職員は利用者から話を聞いたり、利用者の様子を観察したりしながら、新たな情報を把握し、課題整理シートを作成している。新たに把握した情報は、介護日誌やアセスメントシートに記載するほか、介護計画の更新時に合わせて、シートの記載情報も更新している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日常の観察を基に把握に努める				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	その都度正確に記録を記載し職員間で共有している				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	日常の観察を怠らず、職員間で情報を共有している				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	利用者様一人一人に合った介助を心掛け、実践している				
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	日々の会話や行動を基に判断している。必要であればご家族様の協力もお願いしている			○	課題や気になることなどがある場合には、その日の出勤職員と管理者等でその都度話し合いをしている。また、介護計画の更新時には、チームカンファレンスを実施し、利用者や家族の意見を事前に聞くほか、医師や看護師の指示やアドバイスを参考にしながら、職員間で話し合い、利用者の視点に立って、より良いサービスを検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	現状維持ではなく常により良い支援が出来るよう検討している				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	記録、カンファ、ミーティング等で共有している。ケアプラン更新の際にご家族様に説明し問題ないか確認している				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ご家族、ご本人、職員でよく検討した内容にしている				アセスメントシート等の情報をもとに、利用者や家族の意見のほか、医師等の指示を踏まえて、チームカンファレンスの中で話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。以前はカンファレンスに利用者が参加したこともあったが、自分のことも話していると機嫌等を損ねたことがあったため、それ以来参加しないようになっている。また、介護計画は、利用者や家族の意向を反映したサービス内容となっている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	ご家族や医師、職員の気づきも含め、話し合い作成している	○		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	季節の行事や地域のお祭り参加も盛り込んだ内容にしている				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	病院受診はご家族様をお願いしている				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	△	モニタリングシートを使い内容把握し共有している。新人の職員にも指導している			○	担当職員等は、チームカンファレンスに参加して介護計画の内容を把握するとともに、各ユニットで計画作成担当者等が計画を説明し、職員間で共有している。介護計画のサービス実施内容が分かりやすいよう、個別の介護記録に番号をつけて記録に残している。また、利用者の発した言葉や様子は、細かく介護記録に状態・変化や職員の対応などを記載し、記録した職員がサインをしている。さらに、介護日誌にユニットの利用者全員分の申し送り事項を記載するほか、職員は気づきやアイデアを残すことができている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	記録を正確に記載し、毎月モニタリングシートで振り返りを行っている。カンファレンス時に評価・改善に努めている			○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子（言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等）や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	介護記録に詳しく記載し、職員間で共有している			◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	申し送りに記載、職員間で共有している			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	期間ごとに話し合いを行い見直している			○	介護計画は、6か月に1回見直しをしている。毎月、担当職員を中心に、モニタリングシートを活用して、利用者の状態確認などを実施し、3段階等で評価してコメントを残している。また、介護計画の更新時期に合わせて、6か月に1回計画作成担当者等が評価するとともに、介護計画の更新前には、アセスメントシートの情報を更新している。また、大きな変化が見られた場合には、主治医等から意見をもらいながら、現状に即した介護計画に見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	実施している			◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	ご家族や主治医への報告、相談は随時行い共有している			○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	課題が浮上した場合は職員間でミーティングを実施している			○	現在のコロナ過において、定期的に全体ミーティングを開催することはできていないが、課題や気になることなどがある場合には、その日の出勤職員と管理者等でその都度話し合いをしている。話し合いに参加した職員には、管理者等が意見を言いやすいような雰囲気づくりをして、職員からの発言を促している。また、参加できなかった職員には後日意見をもらうほか、内容を伝達している。さらに、全体ミーティングやチームカンファレンスなどの会議は議事録を作成し、職員に配布するとともに、重要事項は口頭で伝達をしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	職員個人個人の意見も聞きつつ行なっている				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	日常業務に支障が出ないように日時を決めている				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	書記係が議事録を作成し、欠席職員に配布する。また重要な点は直接口頭で伝えている			○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	重要事項は紙面に回覧している			○	朝・夕に引き継ぎを実施しているほか、日々の介護日誌にも特記事項や申し送り事項等を記載することができている。また、出勤時には介護日誌を職員は必ず確認するとともに、確認後には日付とサインを行い、確実な情報伝達につなげている。さらに、新たな利用者が入った場合には、重要事項などの情報は別途管理者から回覧をしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。（利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等）	○	出勤時には申し送りや介護日誌を確認サインを行っている	○			

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	可能な限りはご利用者様の意向に沿うよう努めている				事業所では、利用者の意見や行動を尊重し、職員が友達感覚にならないよう配慮しながら、出された要望に柔軟に対応するなど、利用者のペースに合わせながら、楽しみのある生活が送れるよう支援している。職員は声かけをして、着る服を選んでもらったり、どの飲み物にするか聞いたりするなど、可能な範囲で利用者に自己決定してもらえよう支援している。また、カルタ取りが得意な利用者がレクリエーション時に盛り上がった、利用者が生き生きとしながら生け花をしたり、好む話題提供などの雰囲気づくりをするなど、利用者の生き生きとした言動や表情が見られるよう努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	声掛けなど介助に工夫している			○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	ご利用者様の意思を出る限り尊重できるよう配慮している				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	危険のない限り本人の意向に沿うよう介助している				
		e	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	会話やレクリエーションを通じて努めている			○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	日常の表情や出来事を良く観察し職員間で共有している				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重したい関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	トイレ、入浴、更衣時にはプライバシーに気を付けるよう心掛けている		○	○	現在のコロナ禍において、職員は外部研修等に参加できないため。法人としてウェブ研修等の活用を促し、職員は人権や尊厳などを学ぶとともに、日々の業務の中で、管理者等が職員に指導をしている。職員は研修等で、利用者の人権や尊厳などを理解しているものの、訪問調査日には、排泄中の耳の聞こえにくい利用者に職員が、「便が出よるけん、動かん」といった大きな声が聞こえたため、職員間で再度話し合ったり、注意し合ったりするなど、プライバシーや羞恥心に配慮した対応ができることを期待したい。また、居室の入室時には、声かけやノックを行うとともに、不在時には事前に利用者の了承を得てから入室することができている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	利用者さんに合った声掛けや介護を行っている			△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	充分に配慮しながら介助を行っている				
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	訪室の際には必ずノックをし、声掛けをしている			○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	守秘義務契約を理解し、周知徹底している				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	体験や出来事は申し送りに記載し共有している				利用者の鼻水が出ている場合に、他の利用者がティッシュを持って行くなどのフォローをしたり、変わった行動をする利用者がいた場合に、他の利用者が職員を呼びに来たりするなど、利用者同士で助け合いや支え合いをする場面が見られる。また、認知症の進行などにより、利用者が大声を出した場合にテレビの音が聞こえず、他の利用者と言ひ合いになりそうな場合もあるが、職員が利用者の間に入ったり、居室へ移動してもらったりするなどの対応をしている。さらに、利用者の席席を変更して対応することもある。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	日常利用者様が声をかけあっているのを見ている				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	席の設定配置や会話のきっかけなどを提供し取り組んでいる			○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	なるべく利用者様の尊厳を保ち、解決に努めている				

愛媛県グループホーム浜っ子

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入居時にご家族様に話を聞いて情報を職員間で共有している				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	出来る限り把握している				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	近年はコロナ禍もあり出来ていない				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	×	近年はコロナ禍もあり出来ていない				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	近年のコロナ禍により敷地内のみに留まる	△	×	○	現在のコロナ禍において、外出する機会は減っているものの、日常的に敷地内を歩いたり、敷地内にある花壇に花を植えたり、外気浴をするなど、利用者が気分転換ができるよう努めている。また、車いすを使用している利用者と一緒に、外気浴などをすることができている。また、家族の協力を得て、専門医の受診に行くことができている。さらに、外出で季節の移ろいを利用者に感じることができていないため、事業所では、七夕まつりや敬老会などの行事を開催したり、季節の生け花やミカンの木などを飾ったりするなど、季節が感じられるよう工夫している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	近年のコロナ禍によりできていない				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	施設内の花壇で外の空気に触れて頂き気分転換をしてもらっている				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	近年のコロナ禍によりできていない。ご家族様の協力で外出していたがコロナ禍の為、病院の定期受診のみの外出となっている				
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	勉強会、研修を通じて、また実際の事例を通して理解している				町行政が作成した「まっさき！げんきたいそう」やDVDを見ながら、リハビリ体操をするなど、利用者の心身機能の維持に努めている。また、利用者には、玉ねぎの皮むきや調理の下ごしらえ、洗濯物たたみなどの生活リハビリも取り入れている。また、利用者のできることやできそうなことは、職員の時間の許す限り、見守りや待つ介護に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	機能低下の状況に応じて対応している。ミーティングや申し送りで情報を共有し、実践している				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	利用者様の能力に合わせ、行っている	○		○	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	介護記録に事例を記入し共有、把握に努めている				以前、華道の指導者をしていた利用者が花を活けたり、得意なカルタを取り入れたり、利用者の要望に応じて、野菜の名前を書いた札を作成して、何のメニューができるか楽しみながら会話が弾むよう取り組むなど、利用者の役割や出番づくりができるよう努めている。また、脳トレやクロスワードなど、熱心に取り組む利用者もいる。さらに、利用者と一緒に季節に応じた貼り絵を作成したり、七夕の時には短冊に願いごとを書いたりしてもらうなど、張り合いや楽しみが持てるような支援をしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	季節の行事や誕生日会など催し、実践している	×	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	コロナ禍であり、近年は出来ていない				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしやれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしやれについて把握している。	○	本人にその日の服を選んでもらったり実践している				入浴後に、ボディークリームや化粧水をつけたり、自分で服を選んでおしやれを楽しんだり、自分で髭剃りをする利用者もいる。また、食べこぼしや整容の乱れが見られた場合には、声かけをして居室に移動してもらい、着替えてもらったり、さりげないフォローをしたりしている。さらに、重度な利用者にも、毎日の着替えを支援するほか、身だしなみや清潔感などの配慮をしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	ご家族の意見も取り入れながら実践している				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	季節、体調に合わせて利用者様の意向に沿うよう支援している				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	△	季節感や色彩、組み合わせに配慮している				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできたり、さげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	声掛けや介助に配慮している	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	訪問理容を利用している				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	清潔感やその人らしさを配慮している			○	
17	食事を楽しむこと のできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事により活力や満足感を持って頂く工夫している				その日の冷蔵庫にある食材を見て、利用者に食べたいメニューを聞きながら、職員が献立を決めている。業者のカatalogを見て食材を配達してもらったり、職員が買い出しに行ったりしている。利用者に調理の下ごしらえや玉ねぎの皮むきなどを手伝ってもらいながら、各ユニットで職員が順番に調理をしている。アレルギーや嫌いな物などがある場合は、代替えなどの食材を用意したり、利用者毎の食事形態に合わせて、刻み食などの対応をしたりしている。食器は、入居時に自宅に使っていた物を持ってきてもらうように伝え、使用している。昼食時には、職員も利用者と同じ物を食べているものの、介助やサポート、見守りが必要な利用者も多く、同じテーブルを囲むことができず、職員は時間をずらして、キッチンカウンター等を使用して食事を摂っている。また、対面キッチンとなっており、重度な利用者も調理の音や匂いを感じることができている。さらに、栄養士のアドバイスまではもらうことができているものの、職員間で食事内容を話し合ったり、医師から糖質や塩分などの意見をもらったりすることができている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	簡単な前作業をお願いしている			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	軽い食器の下膳をお願いしている				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	ご家族様からの聞き取り、基本情報で確認し把握している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味などを取り入れている。	○	季節ごと、旬なものを進んで取り入れている			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いりどりと器の工夫等)	○	利用者一人一人にあった調理方法を工夫している。盛り付けも食欲をそえられるようにしている				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	なるべくご利用者様が自宅で使っていたものを使用する			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	食事介助や見守りの方がいるので職員と一緒に食べることが難しい			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食事時の雰囲気や楽しさを味わっていただけるよう声掛けに努めている	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	野菜、魚、肉をバランスよく工夫し提供している				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	エンシュア、栄養補助剤なども取り入れて行っている。時間をずらしたり飲み物の種類を変えてみる等工夫している				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	メニュー表を用いて献立が重ならないようにしている			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	調理器具や容器など定期的に消毒を行っている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	研修等を通じて理解している				職員は、訪問歯科医にアドバイスをもらいながら、口腔ケアの重要性を理解している。毎食後、利用者は洗面台で、歯磨きなどの口腔ケアを実施しており、職員は見守りや声かけを行うほか、必要に応じて介助をしている。自身で歯磨きができる利用者までは、口腔内の状況を確認することができていないため、定期的に全ての利用者の口腔内の状況を確認し、異常が見られた場合には、早期の歯科診療につなげられることを期待したい。また、痛みなどの不具合が生じた場合には、歯科受診や訪問歯科診療につなげている。さらに、夕食前には口腔ケア体操を行っている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア時に確認し、情報を共有している			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問の歯科医より指導を受けている				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	食事後の洗浄と夕食後のボリデント消毒を実施している				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	歯磨きはなるべく本人にして頂き、出来ない場合は職員がカバーしている			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	訪問歯科の医師をお願いしている				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	その人の能力に合わせ、またその日の体調にも合わせケアしている				重度な利用者も多く、ほとんどの利用者は紙パンツを使用して過ごしている。個別の介護記録に排泄状況を記録し、職員は排泄リズムを把握している。声かけやトイレ誘導により、布パンツで過ごすことのできている利用者もいる。また、おむつなどの使用時には、適切な排泄用品を職員間で話し合い、家族に確認して使用している。夜間に、ポータブルトイレを使用している利用者もいる。さらに、職員は適度なレクリエーションの参加や水分補給、繊維質の多い食事を取り入れて便秘などの防止に努めるとともに、何日も排便のない利用者には、医師の指示を仰ぎながら、下剤などの服薬をしている利用者もいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	勉強会や医師の指導等を共有している				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	健康チェック表を活用している				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	日々の様子を良く観察し、ADLに応じて介助している	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	日々の様子を介護記録に記載し職員間で話し合い改善に向けて工夫を重ねている				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄の時間を日々記録しパターンを把握している				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人の様子をご家族にも報告し相談して実施している				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	利用者に合った最適なものを使用してる				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	飲み易さやとろみをつけるなど工夫している。こまめな水分補給や繊維質の多い食材を使用し自然排便に取り組んでいる				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	可能な限り配慮して行っている	◎		○	午前の入浴時間を基本として、利用者は週2回程度入浴することができる。利用者の希望に合わせて、湯船に浸かる時間や温度などにも対応し、自分のペースでゆったりと入浴ができるよう支援している。また、好みのシャンプーやボディーソープを使用している利用者もいる。入浴を拒否する利用者には、職員が交代して声かけをしたり、入浴日や時間を変更したりするなど、柔軟に対応しながら、入浴してもらうことができている。さらに、入浴後には、ボディークリームや化粧水を付けることを楽しみにしている利用者もいる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	可能な方はゆっくり湯舟に使って頂いている				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来るところはして頂き、出来ないところを職員が介助している				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	日にちを変更もしくは時間を変更して対応している				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前のバイタルチェックと意思を確認し、入浴中・入浴後の状態も気をつけている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	介護記録等で確認している。				事業所では、日中のレクリエーションやリハビリ体操などの活動量を増やし、利用者が夜間に安眠できるよう努めている。個別の介護記録には、職員が3時間毎に見回りをした睡眠状態などを記録することができている。中には、日中にソファなどで昼寝をして過ごし、夜間にベッド上に座ったままの利用者や、何かに話しかけているような利用者がいるものの、自分の居室で過ごし周りに迷惑がかからない場合には、利用者の生活リズムで過ごしてもらうことも多い。また、眠れないことにより、体調面に支障をきたす利用者には、医師に相談して、眠剤などを服薬をしている利用者もいる。また、18時過ぎには自分の居室で利用者は過ごしており、ほとんどの利用者は朝6時頃まで睡眠をとることができている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昼間に体操や作業をして頂くことにより快眠に導いている				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	毎日の生活リズムを把握し、主治医と連携を取りながら支援している			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	必要な方のみ、実施している				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	ご家族とも相談し可能な方のみ行っている				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	可能な限り支援している				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	ご家族と相談の上実施している				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	必ずご本人に見せている。要望があれば電話をしている				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	ご本人とご家族双方の希望と理解の上、行っている				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	×	自己管理が難しい為行っていない				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	職員が立替金で購入している				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	自己管理が難しい為、行っていない				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	入居時に家族さんに所持できないことを伝え、必要なものがあればその都度立替金にて対応している				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	×	入居時にお金の所持は出来ないことをご家族に伝えている				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	立替金で対応し、毎月のご利用額と購入品を明確に伝えている				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	なるべくご希望に添えるよう努力している	◎		○	現在のコロナ禍において、外出や外食の要望などに応えられない部分があるものの、事業所では可能な範囲で、利用者や家族の要望に柔軟に対応している。また、専門医の病院受診は家族にお願いしているが、ケースによっては職員が同行受診の対応をすることもある。

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関入口に四季折々の貼り絵を飾っている	◎	◎	○	母体クリニックが併設されている事業所は、敷地内にある花壇の近くや玄関内にベンチや座れる場所を確保し、利用者等が座って休めるようにしている。玄関前は、駐車場となっているものの、すっきりと整理されている。事業所内には、「ようこそ、浜っ子へ」などと表示したり、生け花を生けたりするなど、来所しやすい雰囲気づくりをしている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそごうな設えになっていないか等。）	○	装飾や季節に合わせての飾り付けを行っている	○	○	○	事業所前には、幹線道路を挟んで地域の避難場所にもなっている松前中学校があるほか、比較的近い場所には町役場や商業施設も点在している。コロナ禍において、事業所では外出できる機会が減ったため、利用者に季節を感じてもらおう、季節の生け花や貼り絵などを飾り、利用者に雰囲気が味わえるよう工夫している。また、事業所内には多くの観葉植物が置かれている。共用空間にはカウンターキッチンがあり、職員は調理しながら利用者の様子を見渡すことができる。リビングはソファやテーブルが置かれ、訪問調査日にはいすに座って会話や昼寝をしたり、居室で過ごしたりするなど、思い思いの場所で過ごしている様子を見ることができた。さらに、職員が毎日こまめな清掃や1時間毎に窓を開けて換気を行うなど、清潔が保持されている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	日々こまめに清掃している			○	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	壁面に貼り絵をしたり、雰囲気作りをしている			○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	日々のご利用者様の様子を観察し、本人の希望に沿うよう努めている				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	カーテンとドアを使用している				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	ご家族と相談し、出来る限り行っている	◎		○	居室には、タンスやチェスト、エアコンが備え付けられている。布団は事業所で用意し、ベッドはレンタル等をしてもらっている。居室には家族の写真やテレビなどを持ち込むことができるものの、車いすを使用している利用者も多く、整理整頓され、すっきりとした印象を受ける居室も多い。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	ご本人の能力に合わせ介助に努めている			○	利用者に居室が分かりやすいよう、入り口の横には大きく引き伸ばした利用者の顔写真と表札を貼っている。認知症等で迷う利用者には、引き戸に大きく氏名を表示したものの、すぐに忘れてしまうこともある。タンスなどには、中に入っているものが分かるようタオルなどの表示をしている。また、利用者が移動しやすいよう廊下などには物を置かず、動線も確保されている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	職員で情報を共有し日々話し合っている				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。（ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	○	危険のない範囲で準備している				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟）の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等）	○	会議、研修等で周知している	◎	◎	△	事業所では、利用者の安全面を考え、日中にも玄関やユニットの入り口を施錠している。入居時に、施錠することを家族等に説明し、理解してもらっている。また、外出しようとする利用者には、職員と一緒に1階に降りて、敷地内を散歩をするなどの対応をしている。中には、鍵を持たせてもらっている利用者もあり、自身でエレベーターを降りて敷地内にある花壇に行き、くつろぐ場面も見られる。法人・事業所として、利用者の安全面を第一に考えていることもあるが、可能な範囲で職員間で再検討し、コロナ禍の収束後には外出できる機会を増やすなど、利用者の立場に立って考え、自由な暮らしを実現できることを期待したい。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入居時にご家族と話し合い、理解を得ている				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等）。	×	玄関入口は施錠していないが、安全上エレベーターホールは施錠している				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	個人ファイルや日々の記録、申し送りにて把握している				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	日々の健康チェック表、申し送り等で把握、記録している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	各個人の主治医と連携を取り、医師や家族と情報を共有している				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	受診は必ず記録に残している。また受診体制も整えている	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	ご家族の意向を尊重し行っている				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診内容を必ず記録し職員間で共有している。職員対応の受診の場合は家族に報告している				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	必要な情報を漏れなく資料提供している				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院、医師、ご家族とその都度連絡を取り合っている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	関係医療機関と良好な関係が出来るよう努めている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	施設内併設の病院医師、看護師に相談できるようにしている				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	施設内に併設の病院院長に連絡、相談できる体制を取っている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	日々の健康状態をチェックし記録に残している。変化があれば主治医に相談している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	効能書を確認し理解している				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬チェック表を作成し服薬ミスがないようにしている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	服薬時良く観察し、確認している。気になる事は記録している				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	服薬後の状況に変化があれば記録し主治医に相談する				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時にご家族に確認している。何か有れば状態に応じて相談している				法人・事業所として、特段の看取りの指針などは用意はしていないものの、利用者や家族が希望する場合には看取り支援を実施しており、多くの経験をしている。事業所では、利用者の入居時に、家族等に対応できることを説明し、看取りの同意を得ている。また、利用者が重度化した場合には、家族等の意向を踏まえて、医師を交えて話し合い、方針を共有して支援をしている。母体クリニックが併設されているほか、医師や訪問看護と24時間体制で連絡を取ることができ、利用者や家族、職員は安心感がある。さらに、看取りの際には、医師や看護師の指示を仰ぎながら、管理者を中心に支援をしている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	主治医等医療機関とも連携をとっている	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	現状を把握しどのようにすれば対応出来るか職員と話し合っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	何かあればその都度ご家族と話し合いをし理解を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	重度の程度がどこまでは施設で出来るのか、医師やご家族と相談しすすめている				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	密に連絡を取り、様子や出来事を話し、またご家族の想いも聞いている				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	勉強会、研修、各資料を通じて、学んでいる				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	予防、対応のマニュアルはあるが、訓練は出来ていない				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	役場や隣接の病院などから情報を得ている				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	役場や隣接の病院などから情報を得ている				
		e	職員は手洗い・うがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	手洗い、うがい、マスク着用を徹底している。来訪者の方にもお願いしている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	定期的にご家族と連絡を取り、関係を築いている				現在のコロナ禍において、外出や面会の制限を設けており、家族の参加できる行事は実施できていないものの、窓越しの面会ほか、県内のワクチン接種の家族に限定して、事前予約で1回10分程度、対面での面会に対応するなど、徐々に緩和している。コロナ禍以前は、家族と一緒に外出や外出にかけたり、事業所の行事に参加を呼びかけ、参加協力をしてもらったりすることができていた。また、何かあった場合は家族に電話連絡をするほか、2か月に1回ホーム便りを送付したり、3か月に1回程度、利用者毎の担当職員が担当メッセージの欄にコメントを書いたりするなど、利用者の様子を伝えている。さらに、玄関には花を活けたり、壁に「ようこそ、浜っ子へ」などの表示をしたりするなど、来所してもらいやすい工夫をしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	×	近年、コロナ禍の為出来ていない				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	近年、コロナ禍の為出来ていない	×		△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	2ヶ月に1度日常の状態を知ってもらうため、ホーム便りを作成し送付している。何か有ればその都度電話をしている	○		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	△	コロナ禍で直接会う機会は減ったが、電話等で報告を行っている				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	ケアプランを基に職員全員が把握に努めている。ご家族さんとお話する機会があれば必ず利用者さんの様子を伝えている				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得ようとしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	2ヶ月に一度ホーム便りを送付し利用者さんの状況をお伝えしているのみである。	×		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	近年、コロナ禍により、出来ていない				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	△	施設のできる限りの対応をご家族様と話し合い行っている				
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時に文書で説明し納得して頂いている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退居についてはカンファレンスの話し合いや家族さんへの説明をその都度行い記録に残している。転居先へ安心して移れるよう支援している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時に文書で説明し納得して頂いている。料金変更時には文書により通達している。				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	設立段階では十分な説明はされてない。設立後地域の方に理解が得られるよう努めている。		◎		現在のコロナ禍において、地域住民と交流する機会は減っているものの、職員は地域住民にあいさつをしている。コロナ禍以前は、中学生の職場体験や傾聴ボランティアを受け入れたり、秋祭りや敬老会などの地域行事に参加したり、花を植えている近隣住民の自宅を訪問して、見学や写真を撮るなどの交流をすることができていた。また、地元の利用者も多く、知人や友人が事業所を訪問し、交流することもできていた。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	○	町内行事参加・中学生の体験学習の受入れを行っている。日常的な挨拶は職員全員が心がけ実践している。		△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	コロナ禍の為定期的に来られていたボランティアの方も活動されてないので増えてない。				
		d	地域の人々が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	△	コロナ禍の為出来てない。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	挨拶をしたり会話をすることはあるが立ち寄ってもらうことはない。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	×	月2回の傾聴ボランティアの支援があったがコロナ禍の為中止している。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	利用者全員の把握は充分出来ているとは言えないが、利用者さんに寄り添いそれぞれの力が発揮出来るように支援している。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	△	取り組んではいるが充分ではない。				
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	利用者・地域の方の参加はあるが家族の参加はない。コロナ禍の為R2.10月度の開催後は議事録の送付のみを行っている。	×		○	運営推進会議は、区長や民生委員、介護サービス相談員、町担当者等の参加を得て、偶数月に開催している。令和2年10月以降の会議は、コロナ禍において書面会議となっており、参加メンバーに報告書を送付している。会議の議事録は、リビングに置いて閲覧できるようにしているが、会議には家族の参加もなく、利用者家族等のアンケート結果からも理解が得られていないことが窺えるため、コロナ禍の収束後には、今後は全ての家族に会議への参加を呼びかけたり、会議に参加できていない家族に議事録を送付したり、ホーム便りに会議の内容を掲載するなど、理解が得られる取組みを期待したい。すでに、1家族には会議の参加を呼びかけ、集合形式の会議開催時には、参加を予定している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	○	公表・報告している。			○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議の議事録を公表している。出された意見・提案は職員間で共有しサービス向上に活かしている。		◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	参加メンバーの方とも相談しながら配慮している。コロナ禍の為R2/12月度からは会議を中止している。		◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	リビングに置いて公表している。				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	事業所理念をリビングに掲示している。ミーティング等で理念に基づいて実践出来ているか話し合っている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	玄関入口と各フロアのリビングに掲示している。	x	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	年間計画により研修受講出来るよう取り組んでいる。コロナ禍の為外部研修が難しいのでweb研修を取り入れている。				コロナ禍以前は、外部研修などの研修案内を職員に回覧し、希望する研修には参加してもらい、参加した職員は事業所内で伝達し、職員のスキルアップに努めることができていた。現在は外部研修に参加することができず、事業所内研修も減っているため、法人からウェブ研修の提案があり、職員に学習する機会を設けている。代表者は事業所に来訪する機会はほとんどないものの、受診の際に利用者や職員と話すことはあるが、管理者を通じて意見を伝えることが多い。また、事業所では年度末に1年を振り返り、職員からよかったことや反省点、改善点を出してもらい、職員間で話し合いをしている。さらに、事業所では、管理者が職員の意見を聞き、話しやすく働きやすい環境づくりに努めたり、希望休を取り入れたりするなど、長期に働く職員も多く、離職者は少なくなってきている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	取り組んでいるが、実行は遅れ気味である。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	給与水準・労働時間の向上に努めている。資格取得に向けての努力が評価に反映されるようになっている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	研修案内があれば参加しているが、充分とはいえない。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	職員の力量・人間関係に配慮し勤務を組んでいる。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	社内研修で繰り返し学んでいる。日々職員間で話し合い理解している。				職員は、ウェブ研修等で虐待防止等を学ぶ機会があるほか、気になることがある場合にはその都度話し合いをしている。不適切なケアを発見した場合には、管理者やリーダーから職員に注意喚起をするほか、職員同士で注意し合うこともできるようになってきている。また、日常的に管理者等は職員の表情などにも注意を払い、溜息が多くなったり、疲れた表情が窺えたりすると、相談や有休の取得を促している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	年度末に一年を振り返り良かったこと・反省点・改善点を話し合っている。日常の業務においても気づきがあれば話している。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	虐待については注意を払っている。発見した場合はマニュアルに基づいて対応し話し合いをしている。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	日常的に注意を払い点検している。				
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	資料に基づき研修し正しく理解している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	利用者さんの状況を見極めながらカンファレンス時に話し合いをしている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	入居時に家族さんに説明をして理解を頂いている。変更があればその都度家族さんと話し合いをしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	社内研修で学んでいる。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	相談があれば管理者・ケアマネが対応している。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	相談があれば支援出来る体制にある。				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルにそって行動出来るように職員全員で取り組んでいる。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	マニュアルや資料で勉強しているが訓練は出来てない。職員により実践力に差がある。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットを作成しその都度、職員間で話し合い改善し再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	日ごろから予測・検討し未然に防げるよう努めている。				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルに基づき対応方法を検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	迅速に対応し納得して頂けるよう話し合いの場を設けている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	迅速に対応し家族さんが納得出来るよう話し合いを行う。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	介護相談員の方に関わって頂いていたが、コロナ禍の為訪問がないので職員が日々の関わりの中で聞いている。			○	コロナ禍以前は、町行政から介護サービス相談員の派遣があり、利用者の意見や話を聞いてもらい、管理者等に伝えてもらうことができていた。現在は、日々の会話の中で職員が意見を聞いているものの、外出や食事以外の意見はほとんど出されていない。また、以前は各ユニットに意見箱を置いていたが、意見はほとんど入らなかったため、玄関にメッセージボックスと名称を代えて、意見を入れてもらいやすい工夫をしたものの、コロナ禍において面会制限があり、家族の来訪はほとんどなかったこともあり、意見は出されていない。家族には、電話連絡時に意見を聞くよう努めている。さらに、日々の業務や話し合いの中で、管理者は意見を聞くほか、今年から新たに個別面談を取り入れ、意見や相談を聞く機会をもつようになっている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	意見箱の置き場所をリビングから玄関に変更した。職員から声掛けをして普段から意見・要望が言いやすい関係作りを努めている。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	公的な窓口の情報をリビングに掲示している。入居の際にも話をしている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	管理者を通じて職員の意見・要望を聞いている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員から出る意見・提案はその都度聞き利用者さんの支援に活かしている。			○	

愛媛県グループホーム浜っ子

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年一回職員全員で自己評価に取り組んでいる。				外部評価の自己評価は、各ユニットで職員の意見を聞きながら、リーダーを中心に作成している。自己評価の作成は、職員の振り返りや学習の機会にもなり、テーマに沿って職員間での話し合いにも活用されている。また、外部評価のサービスの評価結果は、運営推進会議の中で報告をするほか、職員にも報告して、目標達成計画を作成し、目標の達成に取り組んでいる。利用者家族等のアンケート結果から、家族に外部評価の取り組み状況の理解が得られていないことが窺えるため、今後は簡単に評価結果をまとめたものをホーム便りに掲載したり、コロナ禍の収束後には、家族等に取り組み状況の確認などのモニターをしてもらったりするなど、理解が得られるような取り組みを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	職員全員で取り組むことで意識統一され学習の機会となっている。				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標達成計画を作成し職員全員で達成出来るよう取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	運営推進会議と家族さんには報告しているが、モニターはしてもらっていない。	×	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	職員間の確認のみで終わっている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	△	マニュアルを作成し職員には周知しているが近年未曾有の災害が発生しているのでマニュアルの見直しが必要であり取り組んでいるが遅れている。				法人・事業所として、災害時のマニュアルを作成しているが、町行政から事業継続計画（BCP）の策定依頼があり、今後管理者は策定を予定している。年2回、日中や夜間を想定した避難訓練等を実施し、事業所前の中学校が避難所になっているものの、災害発生時には建物内の垂直避難を予定している。また、運営推進会議を活用して、地域の防災について話し合いをしたこともある。コロナ禍の収束後には、地域の防災訓練に参加協力をしたり、ホーム便りに訓練の様子を掲載したりするなど、家族に防災に関する理解が得られるような取り組みを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中・夜間に関わらず利用者が安全に避難出来るように訓練している。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	消防署立会いの訓練を行っているが、合同の訓練は出来てない。	×	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	×	参加出来てない。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	×	積極的な発信はしていない。				法人・事業所として、積極的な相談機能などの情報発信はしていないものの、地域住民から相談があった場合には快く対応をしている。コロナ禍以前は、秋まつり等の際には、敷地内の駐車場を休憩場所として開放するなどの協力をしている。また、町行政や地域包括支援センターのイベントや会議に参画するなど、連携を取ることができている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	相談があれば応じる。		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	△	地方祭の時、神輿の休憩場所として開放している。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	中学生の体験学習の受け入れをしている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	○	町や地域包括主催のイベントに参加している。			○	